

化学教育 徒然草



— 人との出会い —

OHTA Hiromichi

太田博道

長崎県立大学 学長
化学会 フェロー



巻頭言

人生では大勢の人と出会う。その中で、この人との出会いがなければ人生は違っていただろう、と考えられるくらい大きな影響を受けた人が誰にでも何人かはいるだろう。偶然の幸運とも考えられるし、2人の履歴を辿れば、ある時点・ある場所で出会うのは必然とも考えられる。なかなか微妙で、これでこそ人生とも感ずる。

私が最も大きな影響を受けたのは、大学2年生の時に初めて講義を受けた島村修先生。私はその授業を受けている間に、将来の大学院はこの先生の研究室と決めた。有機化学がご専門であることだけは講義内容から分るので、研究テーマとしてはそれだけで十分、あとはお人柄に惹かれて決心したのだ。遊離基反応機構の研究が研究室全体の大きなテーマであることを知ったのは卒業研究が始まってからであった。半年後、直接ご指導いただいていた秋葉欣也先輩（後広島大学教授）が新設の研究室に移られ、私は先生の直接指導を受けた。しばらく遊離基の研究を続けて、暗中模索のとき、あろうことか先生が「この化合物をつくってみよう」と古い *Berichte* の論文を示され、遊離基が研究テーマの研究室で1人だけ合成研究を行った。できたものは期待外れであったが、学位をいただいて、相模中央化学研究所に職を得た。

島村先生も東大定年後、副所長として相模中研に来られた。私が就職して5年を経た時点で、今度はただ一言、「微生物を使って何か面白いことをやってくれ給え」と申し渡された。普通は途方にくれそうだが、私はその場で承諾し、全く新しい分野に飛び込んだ。何かできるだろうし、死ぬことはないだろう、という程度のいい加減さが幸いにして、いくつか学術論文が出た頃、慶應義塾大学理工学部で化学科が新設され、助教授として移ることができた。

何がきっかけでどう展開するか、その時は分からないのは当然である。これまで経験していないことをやる方が「昨日の続きより面白いのではないか」と考えると、人生は案外うまく転がっていくように思う。最後は「赤毛のアン」からの引用です。When I left Queen's my future seemed to stretch out before me like a straight road. — Now there is a bend in it. I don't know what lies around the bend, but I'm going to believe that the best does.

(注：Queen'sはアンが卒業したカレッジの名前)

[連絡先]

858-8580 長崎県佐世保市川下町123 (勤務先)